

令和4年（2022年）の恵庭岳の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2022年の発表履歴

2022年中変更なし

噴火予報（活火山であることに留意）

○2022年の活動概況

・火口や噴気の状況（図1～3）

1月18日及び9月27日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。山頂東側の爆裂火口内には従来から知られている2か所の弱い白色噴気を確認しました。赤外熱映像装置による観測では、過去の観測（2019年8月及び2020年12月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

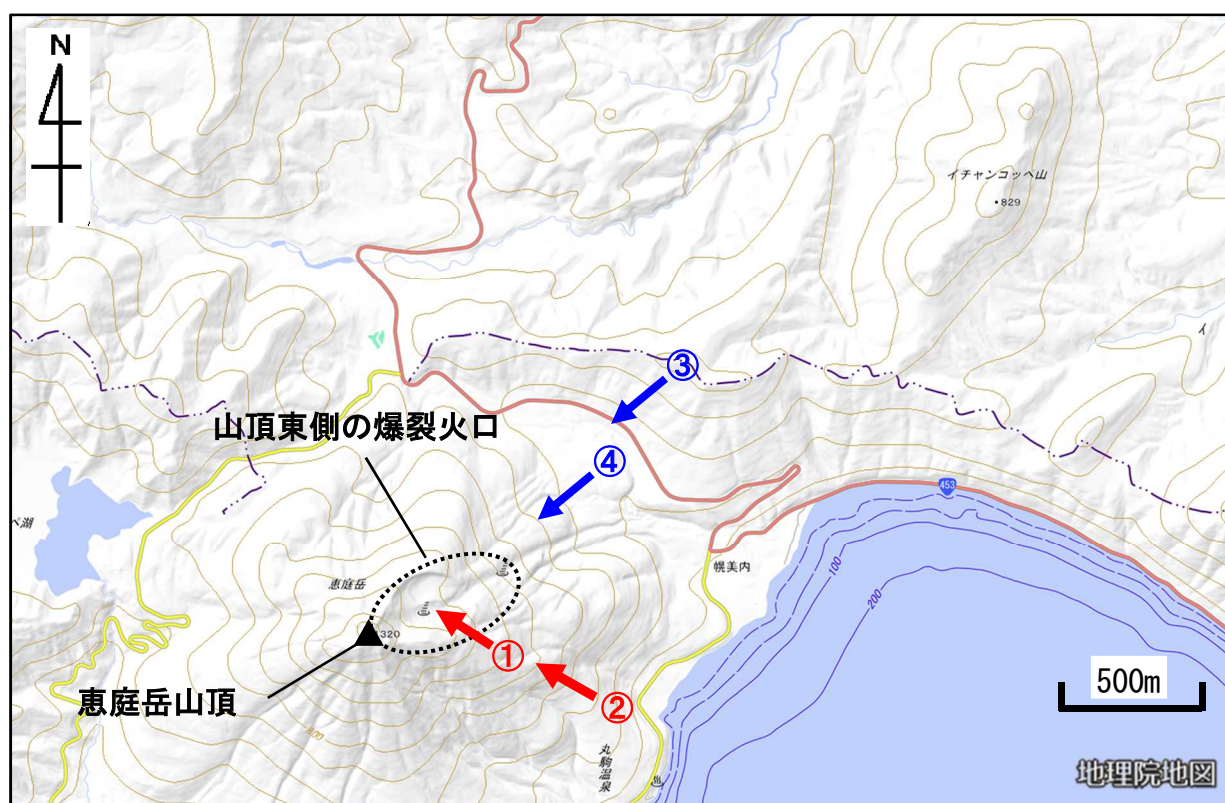


図1 恵庭岳 周辺図及び撮影方向（矢印）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

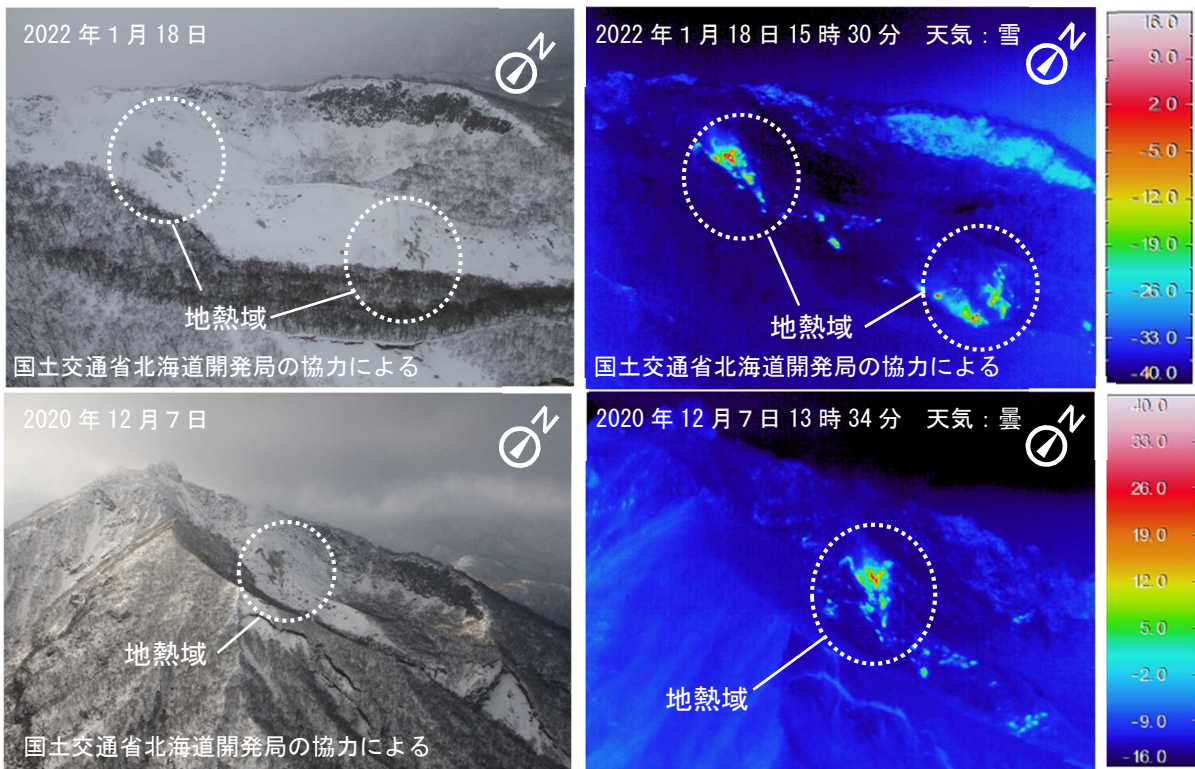


図2 恵庭岳 赤外熱映像装置による山頂東側の爆裂火口内の地表面温度分布
 上：南東側上空（図1の①）から撮影 下：南東側上空（図1の②）から撮影
 ・過去の観測（2020年12月）と比較して、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした（2020年の観測では下部の地熱域は稜線のため撮影できていません）。

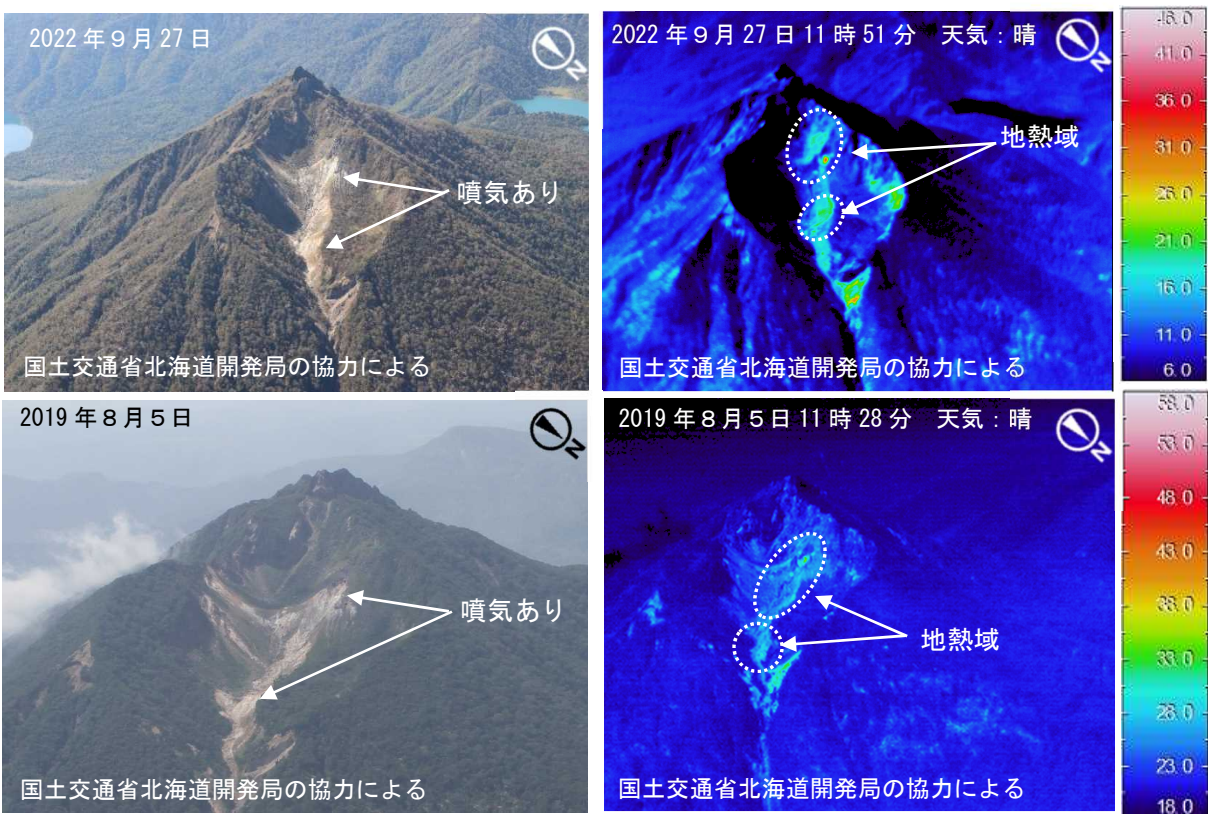


図3 恵庭岳 赤外熱映像装置による山頂東側の爆裂火口内の地表面温度分布
 上段：北東側上空（図1の③）から撮影 下段：北東側上空（図1の④）から撮影
 ・過去の観測（2019年8月）と比較して、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした（一部領域で周囲に比べて温度が高く見えるのは日射による影響と考えられます）。